甑島の内侍舞

【所　在　地】薩摩川内市里村里　八幡神社（里八幡宮内侍舞保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】平成 13 年４月 27 日

旧暦９月 18 日夕方から 19 日午前中の里村八幡神社の秋の大祭で奉納される。祭典では，拝殿入場，開扉，献餞，祝詞，玉串奉奠等に続き，神楽太鼓の音とともに内侍舞が行なわれる。

内侍はマチジョウまたはマツジョウとよばれるが，毎年，当番の小組合の中から中学３年の女子を神籤で選ぶ。

舞いには，鈴を持って手をあげて前進する型，鈴を振りながら両手を大きく３回まわす型，鈴を両手に持って前進する型などがあるが，すべて一定の決まった型である。また，内侍は平常心のままで舞い，神がかりするようなことはなく，あくまで神楽にあわせて一定の型を静かに舞う。

内侍舞の後，直会（オミキビラキ），撤餞，閉扉，慰労会と続くが，直会の料理や作法は古式にのっとって行なわれ，これも注目される。

甑島の内侍舞は，内侍がわが身に神を降ろし，その喜びを舞で表現する趣旨の神事芸能である。内侍舞は，かつて薩摩本土各地にあって神舞の前に必ず舞われたが，今では大方が消滅してしまった。甑島の内侍舞は，その本来の形式と内容を伝承する貴重な芸能である。